

少人数学級と地域の良さを活かして

1 目的と経緯

下吉田第一小学校は、令和2年度より富士吉田市教育委員会から小規模特認校の認定を受け、学校教育活動の魅力化への取組を進めてきた。小規模校の良さを活かした「きめ細かな教育」、グローバルな人材育成を図る「国際理解教育」、地域の専門家を招聘しての「ふるさとふれあい学習」を特色の3本柱として取り組んでいる。毎年7月には、特認校入学希望者を対象に学校開放を行い、地域在住の専門家を講師に招いて、本物にふれながら体験的に学ぶ授業を展開している。

2 内容

1年生 地域在住の画伯による絵画指導 『富士山を描こう』

2年生 (株) テックストーリーによるICT学習

『ICTを身近に！～プログラミング学習～』

3年生 富士山世界遺産センターによる地域文化学習 『流鏝馬祭りの由来』

4年生 富士吉田市国際交流員による異文化学習 『アメリカの文化を学ぼう』

5年生 河口湖フィールドセンターによる野鳥学習 『富士山麓の自然と野鳥』

6年生 マウントフジトレイルクラブによる富士山学習

『富士登山に向けて～世界文化遺産と自然を学ぶ～』



1年生



4年生



5年生

3 成果と課題

- 各方面のプロの方から直接学ぶことで、普段の授業ではできない体験をすることができている。それぞれの学年が、学んだことを以後の授業に活かすこともできた。
- 特認校入学希望者を対象に学校開放をすることで、本校に入学希望を出す家庭が増え、児童数の増加につながっている。
- 教育課程に沿った学びを推進していくための、地域在住者の人材確保を続けていくことが課題である。

子育てに関わる地域・学校で行う教育活動

子育てサロン（保護者・地域・教職員との連携）

1. 目的と経緯

本事業は、下吉田第二小学校の保護者および教職員を対象に、子育てのヒントを提供し、悩みや情報を共有する場として企画した。家庭のために奮闘する保護者を支援し、片付けや学習意欲、心身の健康といった多角的なテーマを通じて、子どもたちの「できる力」や「生きる力」を育むことを目的としている。令和7年度に3回開催している。

2. 内容

各回、地域在住の専門性の高い外部講師を招いて実施した。

回数	テーマ	主な内容	講師
第1回	片付けを通じた「できる力」	子どものペースを尊重し、自律性を引き出す関わり方を学習。	上田五月氏 （整理収納アドバイザー）
第2回	やる気スイッチと夏休み	心理士の視点から、子どもの成長に大切な関わり方や意欲向上を解説。	谷由紀子氏 （スクールカウンセラー）
第3回	自律神経と子供の疲れ	朝起きられない等の症状に対し、体の仕組みから整える方法を検討。	小幡真理子氏 （ららら整体院 院長）



工夫点：親子での参加を可能とし、参加のハードルを下げている。

3. 成果と課題

成果

- ・多様な専門知の提供：整理収納、心理学、整体といった異なる分野の専門家から、具体的かつ即時的なアドバイスを得る機会となった。
- ・継続的な開催：「子育ての悩み」といった保護者のニーズに合致した継続的なコミュニティ形成がなされている。
- ・利便性の確保：校内での開催および電話・フォームによる簡便な申込体制を構築した。

課題：

- ・定員と普及：第1回では先着20名という制限があり、より多くの保護者が参加できる枠組みや、不参加者への情報共有のあり方が今後の検討材料となった。
- ・対象の拡大：教職員も対象に含まれているが、多忙な教職員がいかにサロンの知見を教育現場に還元・共有できるかの仕組みづくりが課題となる。

本校の地域連携・地域交流

富士吉田市立下吉田東小学校

地元消防団と連携した活動

～火災想定防災訓練で消火放水の実演、PTA 奉仕作業の側溝の放水清掃～

1 目的と経緯

本校学区には、地元消防団として富士見町、東町、仲町の消防団がある。かねてより PTA 奉仕作業での協力を輪番で依頼してきたが、今年度は新たに防災教育における連携を行った。日頃より地域を守っていただいている地元消防団の活動を子供達に知らせる良い機会になると考えた。

2 内容

(1) PTA 奉仕作業への協力 実施日 令和7年8月30日(土)

2年に一度、グラウンドの側溝の砂上げ作業を行っている。全ての側溝の蓋がとれるわけではないので、消防車の水圧を使って砂を端に寄せて砂上げ作業をしている。消防団のおかげで手作業では届かない場所の清掃ができています。PTA の生活安全部の主催事業のため、生活安全部を中心に連携を行っている。

(2) 火災訓練で消防団の消火放水の実演 実施日 令和7年10月20日(月)

地元消防団には、本校児童の保護者も多く所属して活動を行っている。日頃から訓練等を行い非常災害時に備えていただいている。しかし、子供にとって地域の大人、中には自分の保護者が活動している様子、地域を自治的に守ってくれているという気持ちは少ないかもしれない。そこで、火災を想定した避難訓練時に消防団を招聘し、消火放水を実演してもらった。当日は、消防団の配慮により、全員が本校保護者の消防団員だった。写真にあるように全ての親子で放水実演を行った。

3 成果と課題

- ・ 奉仕作業では、PTA だけではできない部分を協力していただき、大変ありがたかった。
- ・ 学校の活動に参加いただくことで、地域の中の学校という意識を消防団の方々に持っていただくことができた。
- ・ PTA 及び学校職員と消防団が作業を通じて顔見知りになることができ、地域連携のきっかけをつくることができた。
- ・ 子供達が災害時に地元の消防団に守ってもらっていることを改めて自覚できた。
- ・ 消防団員の子供達は一緒に放水実演をしたことで、改めて保護者を違った視点から知ることができる良い機会となった。
- ・ 引き継ぎをしっかりととして、連携がより深められるようにしていきたい。
- ・ コミュニティースクールの設置校なので、地域連携の主体をコミュニティースクールに徐々に移管したいが、設置2年目での難しさがある。



本校の地域連携・地域交流

富士吉田市立明見小学校

持続可能な連携活動を目指して ～明見小学校・明見中学校の小中連携～

1. 目的と経緯

明見小学校では、学校が隣接しているという立地もあり、以前から明見中学校との連携が盛んに行われてきた。また、明見小学校に通っている児童のほとんどが明見中学校に進学するということもあり、年間を通して様々な活動が計画的に行われている。

コロナ禍で活動が制限されたり、働き方改革で行事の精選が行われたりする中ではあるが、小中の連携は小学校から中学校への段差をなくすうえでも重要である。

今年度も持続可能な連携活動を目指し、取り組みを行ってきた。

2. 内容

①小中連絡会

学期1回、小中の校長・教頭・教務主任が集まり、連携活動の内容を確認したり、児童生徒の様子について情報交換したりしている。

②小中合同引き渡し訓練

令和4年度から小中合同で行っている活動である。今年度は、大規模地震を想定し、小中合同で引き渡し訓練を行った。今後は、富士山噴火を想定しての引き渡しと、大規模地震を想定しての引き渡しと交互に行い、いざという時のために備えていく予定である。



～富士山噴火を想定しての
引き渡し訓練（R6）～

③小中合同あいさつ運動

年間9回（始めの会・終わりの会を含む）小中合同でのあいさつ運動を行っている。小中の職員・児童・生徒が4箇所に分かれて、登校してくる児童生徒にあいさつハイタッチを行っている。年間数回は、PTAにも協力を依頼している。

今年度は、Pからの発案でマスコットキャラクターも登場し、あいさつ運動を盛り上げた。

中学生の姿を見て、小学生が学んでいる様子が見られ、とてもよい機会である。



～Pも参加したあいさつ運動の様子～

3. 成果と課題

上記以外にも部活動見学（ビデオ視聴）や小学生に中学校生活についてアンケートをとり、入学説明会で説明をする等、様々な取り組みが行われている。中学校生活への期待を抱かせたり、新しい環境への不安を取り除いたりするとともによい機会となっている。働き方改革もあり、なかなか新規の活動を仕組んでいくのは難しい面もあるが、持続可能な形で小中連携を継続し、子供たちのよりよい成長のために取り組んでいければと思う。

本校の地域連携・地域交流

富士吉田市立吉田小学校

もっともっと まちたんけん

1. 目的と経緯

- ・地域と関わる活動を通して、地域で働いたり生活したりしている人々と自分たちの生活との関わりを考える。
- ・地域により親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

2. 内容

- 1、前回のまち探検をふり返り、探検したいところについて話し合い、計画を立てる。
- 2、探検場所の質問を考える。
- 3、まち探検に行き、インタビューをしたり場所を見学したりする。
- 4、探検してわかったことをカードにかく。
- 5、グループごとにまとめた内容をクラスで伝え合う。
- 6、これまでの活動をふり返りしたことやもっとやってみたいことを伝え合う。

3. 成果と課題

○児童が、町探検を通して、お店の工夫や働いている人の思いを知り、地域の魅力に気づくことができた。お店の方と一緒に参加した保護者との交流により、児童が主体的に活動し、地域を大切に思う気持ちをもつことができた。

○公共施設や地域の歴史施設などの見学を通し、富士吉田の歴史や文化について知ることができた。文化の継承においては、高校生が主体的に活動している交流施設を知り、児童が参加している身近なイベントの運営に関わっていることを知ることができた。地域の一員として、それぞれの立場から支え合っていることを学んだ。

▲地域の協力が得られた一方で、訪問先や協力者に偏りが見られた。事前調整や情報共有を工夫し、地域の変化に柔軟に対応し、多様な地域との連携を広げる必要がある。



地域とともに児童の安全を守る PTA の取り組み

富士吉田市立吉田西小学校

1. 目的と経緯

本校の通学路は交通量が多い箇所や見通しの悪い交差点が点在しており、児童の登校時における交通事故防止は喫緊の課題となっています。これまでも保護者の皆様には登校班の旗振りにご協力いただいておりますが、より実効性の高い安全確保を目指し、本講習会を企画いたしました。

本会の目的は、保護者自身が警察署や教習所所員の専門的な知見に基づいた「正しい旗振りの技術」を習得することで、児童が安全に横断歩道を渡れる環境を整えるとともに、地域全体で交通安全意識を向上させることにあります。

2. 内容

当日は、岳麓自動車教習所にて交通安全の専門家を講師にお招きし、座学と実技を組み合わせた以下のプログラムを実施しました。

① 警察署員による交通安全講義

富士吉田警察署の署員より、近年の交通事故発生状況や、ドライバーから見た歩行者の死角について講義をいただきました。「歩行者を守る」だけでなく「自身の身を守る」ための立ち位置、ドライバーに対する明確な意思表示の重要性など、効果的な旗振りの基本姿勢について学びました。

② 自動車教習所所員による指導・実演

続いて、岳麓自動車教習所の所員を講師に迎え、より具体的な技術指導が行われました。

- 正しい旗の持ち方と動作：遠くからでも視認しやすい旗の振り方や、静止の合図の出し方。
- 安全な横断の誘導：登校班の児童を安全に横断歩道へ進入させ、全員が渡りきるまでの一連の流れとタイミング。
- 実演訓練：

実際の道路環境を想定し、参加者が交代で旗振りを実践。講師から「旗を出すタイミング」や「周囲の安全確認のポイント」について、その場で具体的なアドバイスを受けました。



3. 成果と課題

成果

本講習会を通じて、参加者からは「これまで自己流で行っていたが、正しい方法を知ることで自信を持って活動できるようになった」との声が多く聞かれました。特に、危険箇所が多い本校の通学路において、単に旗を持つだけでなく、「ドライバーとアイコンタクトを取る」と「適切なタイミングで合図を送ること」といった、実践的かつ効果的な方法を学べたことは大きな収穫です。保護者の安全に対する意識が技術面から強化されたと言えます。

また今回の講習会はNHKの「News かいドキ」にて放送され、多くの保護者に周知することができました。

課題

今後の課題としては、今回参加できなかった保護者への周知と技術の共有が挙げられます。講習で学んだ「正しい旗振りのやり方」をマニュアル化し、次年度以降の当番活動に反映させていく必要があります。



ちよっくらクラブ ～CSから広がる地域連携～

1. 目的と経緯

今年度の第1回学校運営協議会の際、学校と地域の連携について意見交流を行う中で、児童の学習に関わって連携できることもあるのではないかと…気軽に学校に来て児童の学習をサポートするのはどうか…気軽にという意味も込めて「ちよっくらクラブ」と名付けるのはどうか…という意見をもとに、学校で「ちよっくらクラブ」募集のチラシを作成し、上暮地地域の全戸に配布した。チラシを見て数名の方が連絡をくださり、授業等に参加していただいた。



2. 内容

- ①5年生家庭科で、初めての裁縫(玉結び・玉どめ・波縫い・ボタン付けなど)の補助に来ていただいた。
- ②3年生、4年生、6年生の総合で、実際に町を歩きながら今堰や上暮地地域のこと、富士講の人たちが歩いた道と石碑についてお話を聴くことができた。



3. 成果と課題

- ◎初めての糸と針に悪戦苦闘の子どもたちだったが、授業担当だけでなく、地域の方も一緒に寄り添って指導して下さり、しっかりと身に付けることができた。
- ◎地域の歴史について豊富な知識と経験を持った地域在住の方のお話は説得力があり、子どもたちのみならず、担当教員にとっても良い学びとなった。
- ◆地域の方に周知する方法について、今年度は全戸配布を行い、ご連絡くださった方に来ていただいた。今後、この「ちよっくらクラブ」がさらに機能するよう、呼びかけや連絡の方法を検討したり、授業の中で来ていただきたい場面を洗い出したりするなど協力して下さる方を増やし、お願いしやすくする工夫について考えていきたい。

本校の地域連携・地域交流

都留市立谷村第一小学校

自然災害に備えるまちづくり ～防災教育（都留市役所 都留市防災担当との連携）

☆4 学年 社会科

★講師 市防災担当 加藤室長 鈴木L 吉田さん 海野さん

1 目的と経緯

- ・防災意識を高め、自分たちを取り巻く危険や市の防災について学ぶとともに、災害時にどのように行動したらよいかを学ぶ。
- ・4年生の社会科において、「自然災害に備えるまちづくり」の学習を行った。その中で児童から、都留市ではどのような準備や対策がされているのだろうかと疑問が生じ、都留市防災担当に市の災害対策や防災倉庫の様子などを見せていただけるように依頼した。



2 内容

- ・防災×スポーツ 4つの種目を体験することを楽しみつつ、災害時に実際に必要となってくる動作や知識を学ぶ。みんなで協力することの大切さを感じる。
- ・スライドを見ながら、自分たちも災害時に地域の一員として働けることを知り、自分にできること、家でできることを考える。
- ・簡易トイレ、段ボールベッド、備蓄食品の体験、防災倉庫の見学をする。

3 成果と課題

- ・ゲーム感覚で楽しみながら災害時に必要な病人や食料品の運搬などの動きを体験することで、運ぶ時の大変さや心構えを知ることができた。また、実際に災害が起こったときに地域の一員として働くための行動力を身につけることができた。
- ・簡易トイレ、段ボールベッド、備蓄食品の体験、防災倉庫の見学することで、日ごろからの備えの大切さを実感することができた。
- ・今年度が初めての試みであった。来年度以降も連携をしていけると子供たちの防災意識が高められると考え。

地域の方からの学びから広がる交流の輪

～土曜参観・親子体験教室～

1 目的と経緯

本校では、長きにわたり授業参観後に体験教室を行ってきた。平成10年(1998年)に「日曜参観・地域の人から学ぼう集会」から始まり、平成17年(2005年)から「土曜参観・親子体験教室」となり、今年で20年目を迎えた。児童・保護者はもちろん、講師でいらっしゃる地域の方々も楽しんでいる会であり、地域と学校、地域と児童・保護者がつながる貴重な機会である。

- 目的
- ・地域の方から、活動や体験をとおして、様々なことを学ぶ。
 - ・親子で体験活動をするにより、ふれあいを深める。

2 内容

- ・講座に分かれて親子で体験活動を行う(1時間30分)。今年度は5つを開設。
- ・講師は校区内地域の方を中心に、校区外にも範囲を広げてお願いしている。
- ・毎年違う講座への参加を呼びかけ、各家庭へ事前に希望をとり、各講座の人数を調整する。
- ・各講座の主担当の教師が、講師との連絡調整と打ち合わせ、当日の講座運営を行う。



2025年10月26日(日)
山梨日日新聞より

地域住民講師に
親子で制作体験
都留・谷村一小で教室
都留・谷村一小は、地
域住民を講師に招き、児童と
保護者が手芸や工作などに取
り組む「親子体験教室」を開
いた。
交流の機会にしようと、土

3 成果と課題

○地域の方と児童・保護者がものづくりを通してつながる素晴らしい機会である。ものづくりをすることで自然とコミュニケーションが生まれ、学校・児童(保護者)・地域が互いを理解し合え、連携をより深めることができている。

△講師が高齢化しており、今後も継続していくには、その講座の後継者を確保する必要がある。また新しい講座を開設できるような新たな人材の確保も不可欠である。

*コミュニティスクールとして2年目を迎えた本校として、持続可能な親子体験教室の在り方をはじめ、様々な特技をもつ地域人材の発掘、さらに現存の行事や新たに始める行事における地域交流の可能性を、学校運営協議会で現在も熟議を重ねている。

「防災グッズ」の教室では、市内の防災士4人らが児童らにペットボトルランタンの作り方を教えた。児童らはペットボトルをセロハンで飾り付けて水を満たし、懐中電灯の上に置くことで光を拡散させるランタンを制作した。写真。4年生の陳泰興さんは「実際に停電のときは作り方を思い出して明かりをとりたい」と話していた。

〈武田真明〉



～ 地域ボランティアとの連携 ～

○読み聞かせ ○シルバー開放日 ○花植え

都留市立都留文科大学附属小学校

1 目的と経緯

- ・「開かれた学校」をめざして、校長の呼びかけにより地域にお住まいのボランティアの皆様（開地地域協働のまちづくり推進会・学校評議員・その他）に協力していただき、読み聞かせ・シルバー開放日・花植え活動を令和5年度より行っている。

2 内容

①読み聞かせ

- ・目的：児童に読書への興味・関心を喚起させ、読書意欲を育てる。
- ・実施：5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月1月まで各1回、2月2回（年10回）
各学年3回実施できるよう計画
- ・校長が計画立案、協力者依頼。
- ・2名の方に「附属小タイム（12:50～13:10）」に来ていただき、読み聞かせをしていただいている。

②シルバー開放日

- ・地域の方の指導により、楽しく活動しながら交流を深める。
- ・実施10月24日（金）午前中
前半（1・2・3年生）＝伝承遊び：ビー玉・おはじき・だるま落とし・あやとり・コマ回し・けん玉
後半（3・4・5・6年生）＝グラウンドゴルフ
- ・協力 協働のまちづくり推進会・学校評議員・その他
当日の指導、グラウンドゴルフのコース設置をしていただく。
（用具は都留市体育館から借用）
- ・校長が計画立案、協力者依頼。

③花植え

- ・目的：学校の環境整備のため、地域にお住まいの方と協力して花植えを行う。
- ・実施：7月、11月：年2回
- ・教頭が計画立案、協力者依頼。
- ・花植え後のプランターは、地域の8事業所に届けている。

3 成果と課題

- 子どもたちはそれぞれの交流をとっても楽しみにしている。
- 協力者と一緒に植えた花を児童が分担して水やりを行い、児童により学校の環境整備が進められている。届け先の事業所の方は喜んでくださり、大切に花を育ててくださっている。
- 協力者から、「今年はいつやるのか、次はいつなのか。」というような声が聞かれ、交流が定着してきていることが伺える。
- 協力者は、子供たちのために関わっていきたいという意識を持っている。
- 交流の機会を重ねるごとに地域の方々との関わりが濃くなり、地域や地域の方々とのつながりを大切にする気持ちが育ってきている。



本校の地域連携・地域交流

都留市立東桂小学校

地域で学ぶ 地域に学ぶ 地域と学ぶ

東桂学習（5年） ～米作りを通して～

1. 目的と経緯

・学習の趣旨

東桂地域の米作りについて、地域の方々と関わりながら学び、理解を深めることを目的としている。

・地域との連携

実際に米作りを営んでいる方を講師として招き、専門的な知見や実体験を学ぶ機会を設けた。また、収穫した稲藁を使った「しめ縄作り」では、地域の方に作り方を教わりながら、親子で楽しく伝統文化に触れる交流の場を設けた。

2. 内容

米作りに関する一連のプロセスを、講話と体験の両面から実施した。

①講話による学習

- ・地域の方から米の育て方の工夫や大変さについてお話を伺った。
- ・児童が疑問に思ったことを直接質問し、回答をいただく質疑応答も行われた。

②農作業体験

【田植え】初めての経験に泥だらけになりながらも、一株ずつ丁寧に、列を揃えて植える作業を行った。

【稲刈り】鎌を使って力強く刈り取り、稲を束ねて干す作業まで協力して取り組んだ。

③収穫物の活用

【販売体験】東桂地区文化祭にて、自分たちで2合ずつ量って袋詰めし、手描きのパッケージを施したお米を販売した。

【伝統文化体験】学年部会行事にて、収穫した稲藁を使い、地域講師の指導のもと親子でしめ縄作りを行った。

3. 成果と課題

- ・実際に体験し、地域の方と直接対話することで、農業に対する理解が深まった。
- ・販売パッケージの作成や、泥を気にせず一生懸命作業する姿など、児童の積極的な姿勢が見られた。
- ・地域の文化祭での販売が大盛況に終わったほか、親子でデザインを考えながらしめ縄を作るなど、良好なコミュニティ形成に繋がった。



宝小の地域連携・地域交流

都留市立宝小学校

命を守る教育 ～交通安全教室・防犯教室～

☆講師 大月警察署 宝駐在所 杉田巡查部長

1 目的

- (1) 交通安全に対する関心・知識を高め、交通事故から身を守れるようにする。
- (2) 防犯意識の向上や安全な登下校を行うための知識を得ることを目的とする。

2 内容

(1) 1年生を対象とした交通安全教室

- ・入学して間もない1年生を対象に、交通安全に対する関心・知識を高めるとともに、交通事故から身を守れるようにすることを目的に4月中におこなった。
- ・講師は、毎日登校指導も行ってくださる宝駐在所 杉田さんにご講義いただいた。まず教室で交通安全講話をしていただき、映像をみて確認した。また、学校校門前の押しボタン式信号を押して、横断歩道を渡る練習をおこなった。

①横断の仕方

(校門前の押しボタン式信号機を使って体験する)

- ②安全な歩行の仕方
- ③飛び出し禁止 等



(2) 全校を対象とした防犯教室

- ①防犯に対する関心や知識を高め、日ごろから安全な登下校ができるよう、知識を得る機会とすることを目的におこなった。
- ②講師として山岳救助隊としてもご活躍の宝駐在所杉田さんにご講義いただいた。
- ③例年、不審者に対する防犯意識と安全確保の手段について学ぶ機会としている。今年度は、山に囲まれた自然環境下にある本校の実態を踏まえ、野生生物（クマ、サル、シカなど）に遭遇したときの対応の仕方やその習性などについて学ぶ機会となった。



3、成果と課題

- ・杉田駐在さんには、毎日の登校時にも見守っていただいているので、子どもたちの様子を把握しており、貴重な学びの機会となった。
- ・6年三つ峠登山にも引率して下さっている。
- ・配属／異動により、継続的な駐在さんとの連携体制が流動的になることが予想される。



コミュニティ・スクールを活用した地域連携・地域交流

1 目的

禾生第一小学校では、「地域とともに歩む学校づくり」を掲げ、コミュニティ・スクール（CS）を活用した地域連携を計画的に推進している。令和7年度は、地域文化や伝統芸能に触れる体験を通して児童が地域への誇りや愛着を育むこと、地域人材の教育参画を促し、児童の学びを実践的・体験的に豊かにすること、学校・家庭・地域が協働して児童の安全と健全な成長を支える体制を構築することを重点として取り組んだ。また、学校運営協議会を核とし、学校課題の共有と改善を地域とともに進めることを目指した。これらを通して、地域と一体となった教育活動を推進している。

2 経過（令和7年度の実践）

CS委員と教職員による熟議を重ね、次の方向性を共有した。

(1) 地域理解を深める機会の充実

地域の文化・歴史（神楽、八朔祭り等）を授業と連携して学ぶ機会を設定する。

(2) 地域資源の活用と情報共有

見守り隊、スクールガード、学生ボランティア等の情報を一覧化し、教員間で共有する。

○これらを踏まえ、以下の2つの取組を実施した。

・**伝統芸能を学校で学ぶ取組として「神楽鑑賞会」を実施**

四日市場神楽保存会の協力により、本物の舞や囃子の音に触れる貴重な機会となり、児童が地域文化の継承について考える契機となった。

・**家庭科におけるミシン学習で学生ボランティアが支援**

都留文科大学の学生が学級ごとに入り、児童一人ひとりの操作を丁寧にサポートした。ミシンが苦手な児童にも寄り添った支援が可能になり、学習への安心感が大きく高まった。

3 成果と課題

【成果】

・**神楽鑑賞会の充実と児童の主体的参加**

四日市場神楽保存会（2015年の南都留教育フォーラムでも演舞を披露）の皆様のご協力により9月1日の祭典行事の合間を縫って鑑賞会を実施できた。令和7年度は、本校児童3名が演者として出演し、地域文化の継承に主体的に関わる姿が見られた。CSの委員でもあり神楽保存会のメンバーでもある吉澤様による解説や舞の意味の紹介も加わり、児童の理解がさらに深まった。また、地域文化を「地域の大人が活躍する姿を知る機会」として、児童が地域の伝統を支える人々の思いに触れる機会となった。



・**家庭科ミシン指導における地域・大学との連携の深化**

地域ボランティアとして都留文科大学の学生が学級単位で協力に入り、学校だけでは難しい一人ひとりに寄り添った指導が実現した。ミシン操作の補助、安全指導、作品の仕上げに関する助言など、細やかなサポートにより、児童は安心して作業を進めることができた。



・**学校と地域の協働体制の定着**

これらの取り組みにより、学校と地域が共に子どもを育てる協働体制が定着しつつある。ボランティアが主体的に役割を担い、教員との連携も円滑になったことで、授業改善や活動の質向上につながっている。

米づくり・ミシンでの授業を通じた地域の方との交流

1 目的と経緯

禾生第二小学校では、長きにわたり総合的な学習の時間の取り組みとして、学区内の小形山にある水田をお借りして、地域の方々の指導を受けながら、田植えから精米までの一連の米づくりの体験を行っている。今年度は、小5・6年の家庭科の授業の中で、地域の方を講師に招いてミシン講座を行った。

2 内容

◎5年生による米づくり

- 5年生の総合的な学習の時間で米づくりを実施。
12名の地域の方が講師としてかかわった。
- 田植え、草取り、鳥よけ、稲刈り、脱穀、精米までの過程を体験した。
- 最後に、お世話になった方々と精米したお米で給食を一緒に食べて感謝の会を行った。



◎5・6年生の家庭科によるミシン講座

- 5, 6年生の家庭科の中でミシンを扱うため、
10名の地域の方が講師としてかかわった。
- ミシンの使い方から、実際に裁縫作業を行い、
ティッシュケースとマルチ巾着を作成した。



3 成果

- 自分たちの手で育てたお米を収穫することで、食べ物大切さや農家の方の苦勞を実感する機会となった。また、食と命のつながりを感じる貴重な体験となった。
- ミシンに来た講師の方からは、子どもたちとかかわれたこと、来年もまた講師としてかわりたいという思いをもつなど、来年度以降も継続して行っていきたい。

本校の地域連携・地域交流

道志村立道志小学校

道志保育所・道志中学校との交流事業

☆道志小学校音楽集会

1. 目的

- ・楽器を演奏したり、鑑賞したりすることで音楽に親しむ。
- ・互いの発表を鑑賞することによって、個々の感性や表現を高める機会とする。
- ・保小中連携事業の一環として、互いの様子を知り小1プロブレムや中1ギャップの解消に繋げる。



2. 内容



- ・1学期には音楽鑑賞会として、道志中の生徒の太鼓演奏を道志小の児童が聴いたが、今回は道志小の低学年・中学年・高学年の児童の演奏や合唱を道志保育所の年長児や道志中学校の生徒を招待し聴いてもらった。
- ・低、中、高と各学年とも工夫された発表であった。低学年の発表には保育所の年長児も参加した。
- ・小学生と中学生は感想を交換するなど交流も行った。

3. 成果と課題

- ・小学生の発表を保育所の年長児が聴き、中学生から発表の感想をもらうことで、年長児は小学校の様子を知ることができ、小学生は感想を知り中学生の感性に触れることができた。
- ・小学生が主体的に運営したことで、自信をつけるだけでなく、お兄さんお姉さんとしての意識を高められた。
- ・今後も保小中で連携した活動を行い、交流を深め、小1プロブレムや中1ギャップの解消に繋げることが課題である。



地域と連携した「PTA親子活動」の取り組み

1 目的

- ・体験活動にとどまらず、学校・家庭・地域が一体となって子供たちの成長を支える。
- ・地域の方と協力して畑づくりや収穫、また、収穫物を利用した活動を行うことで、家庭内での会話や協力関係を促進し、親子のきずなを深める。
- ・児童や保護者は地域の知恵や経験の価値観を実感し、地域に支えられていることへの気づきを得る。
- ・地域の方に、子供たちの成長や親子の学びに関わっていただくことで、相互理解と信頼関係を深める。

2 内容

○1年生【地域連携…地域在中：元、西桂小学校用務員】

とうもろこしを育てるため、ご指導のもと、畑の畝づくりと苗植えを行った。児童が収穫したとうもろこしは、しっかりと乾燥させた後、授業参観日に合わせてPTA学年活動として「親子ポップコーンパーティー」を実施した。自分たちが育てた作物の恵みを親子で味わい、豊かな学びにつなげることができた。



○5年生【地域連携…西桂町農業委員、食生活推進委員、郷田精米店】

活動は、田植え、稲刈り、脱穀、そして収穫した米を用いた非常食づくりという流れで構成した。全工程で、地域の方々のご協力をいただき、農業体験と地域交流を深めることができた。調理実習で用いたお米は、児童によって「西子西子米（ニコニコマイ）」と命名し、親子での非常食調理実習を通じて防災意識を高めた他、自分たちで育てたお米への愛着と喜びを感じることができた。収穫したお米の一部は、日頃お世話になっている方々へ感謝のメッセージと共に贈呈し、残りのお米は家庭に持ち帰り、活動の成果を家族と共有した。



3 成果と課題

- 畑づくり、苗植え、収穫、調理実習といった一連の体験的な活動を通じ、農業や食育、そして自然環境に対する理解を深めることができた。
- 親子で協力して実習に取り組む機会が増えたことで、家庭での会話も増加した。これが実習内容の振り返りや、家庭内での新たな話題作りにつながった。
- 地域ボランティアの方々にご協力いただくことで、活動に関わる人々の顔が見える関係性を築けた。これにより、地域のコミュニティ活性化に貢献することができた。
- 5年生の活動では、非常食づくりを通じた防災教育と連動させるなど、実習内容を他分野の教科・学習内容と横断的につなげることができた。
- 活動にご協力いただく地域ボランティアの方々の高齢化が見られる。今後の持続性を確保するため、多忙な方でも参加しやすい時間帯や活動形式を工夫する必要がある。
- 慣れない作業においては道具の使用方法などに起因する危険性が伴うので、怪我を未然に防ぐためにも、引き続き安全管理を徹底する必要がある。

本校の地域連携・地域交流

山中湖村立山中小学校

地域の自然を学ぶ教育 「フジマリモ」学習会

1. 目的と経緯

1956年、山中湖で「フジマリモ」が発見された。フジマリモは非常に珍しい生物であり、現在は山梨県の天然記念物に指定されている。地域にこれほど貴重な生物が生息していたことは、子どもたちにとって大きな学びの機会であり、地域の自然を誇りに思う心や、環境を守る姿勢を育てる上でも重要である。そのような観点から、地域のNPO法人山中湖姫まりも湖援隊の協力を得て、山中小学校と東小学校では隔年で「フジマリモ学習会」を実施し、地域の自然環境への理解を深める取り組みを続けている。



2. 内容

当日は、3・4年生が体育館に集まり、3名の講師から貴重な話を伺った。最初に、フジマリモの第一発見者である亀田さんから、発見当時の状況について詳しい説明があった。マリモを見つけたときの驚きや、その後自宅で生育させるためにどのような工夫をしたか、またマリモが珍しい生き物としてどのように注目され、天然記念物に指定されたかなど、当時の経験に基づいたエピソードを交えて話していただいた。

続いて、国立科学博物館の辻先生から、マリモが生きる環境の特徴について科学的な観点から解説があった。マリモは水のきれいな場所でしか生きられないこと、光の量や水温など、生育に必要な条件が繊細であることなど、普段の生活では気付かない自然の仕組みについて学ぶことができた。子どもたちは、ここ山中湖の環境がマリモにとって大切な場所であることを改めて理解した。

3. 成果と課題

最後に、山中湖姫まりも湖援隊の皆さんから、マリモを守るために地域としてどのように取り組んでいるか、また今後どのような行動が必要なのかについて話があった。マリモを守ることは、単に一つの生き物を保護するだけではなく、山中湖全体の環境を守ることに繋がるという視点が示され、子どもたちにとって環境保全の意義を考える重要な機会となった。

子どもたちは、自分たちの住む地域に希少な生き物が存在していたことを知り、自然環境への興味や環境保護への意識を高めることができた。一方で、講師の話の中には専門用語や科学的な内容が多く、理解するのが難しいと感じる児童もいた。今後は、事前学習を充実させたり、子どもでも理解しやすい資料を準備したりするなど、学習会の内容をより分かりやすくする工夫が課題として挙げられる。

美しい地域を守る活動
～児童会・PTA・地域の方との連携～

☆湖畔清掃

1. 経緯と目的

「富士は日本の宝、この清らかな環境と美しい大自然をいつくしみ守ろう」

これは、村民憲章にある言葉の1つである。

児童は毎日、富士山を眺めながら湖畔を歩いて登下校している。本活動は児童会活動の1つであり、保護者と地域の方（ロータリークラブ）と連携し、清掃を通して地域を大切にしようとする心情を育む事を目的としている。1979（昭和54）年から続いている清掃活動である。

2. 内容

□清掃場所に集合し始めの会を行う。児童会長、学校長、PTA会長、ロータリークラブ会長さんからの話を頂く。

□学年ごとに決められた区画内のゴミを拾う。

□学年ごとに不燃ゴミと可燃ゴミを仕分ける。

□清掃終了後、終わりの会を行い、活動は終了する。

□清掃場所は、学校から歩いて行ける距離にある湖畔である。



3. 成果と課題

◆保護者や地域の方と共に清掃することにより、児童には「地域を大切にしよう」とする心情が育まれている。

◆ロータリークラブの方も活動の意義を理解し、児童との交流が深められている。

◆清掃時間の修正、清掃場所のローテーション、美化の啓発等、清掃活動がより効果的になるよう改善を図る。

◆清掃やその他の活動を通して、児童と地域の方との交流や連携がさらに求められる。

鳴沢小学校の地域連携・地域交流

鳴沢村立鳴沢小学校

<ポプラっ子まつりでの高齢者との交流>

1. 目的：児童会行事（ポプラっ子まつり）として、異学年や高齢者・保護者との交流を深め、児童が主体となって縦割り班ごとに出店を企画・運営する。
2. 内容：出店の一つとして、「お達者クラブ」のお年寄りから遊び（お手玉・こま・あやとり・めんこ・けん玉など）を教えていただきながら、児童と村内のおじいちゃんおばあちゃん、保護者とで交流を深める。
3. 成果と課題：近くに住んでいるお年寄りであっても一緒に関わる機会が少なくなっているため、児童と高齢者、保護者が交流するよい時間となった。また、敬老の日には地域行事として、児童が書いたお手紙を渡して地域のお年寄りとの交流もした。お年寄りからの返信が数通あり、児童も喜んでいました。



<高齢者とのグランドゴルフの交流>

1. 目的：クラブ活動で、村のグランドゴルフクラブの方々と交流をする。
2. 内容：クラブの時間に、屋外ボールゲームクラブの児童が村のグランドゴルフクラブの方々から、打ち方のコツなどを教えてもらったり、一緒にゲームを楽しんだりする。
3. 成果と課題：雨で延期となってしまったが、2学期に実施することができてよかった。グランドゴルフクラブの方々からの指導を真剣に聞く児童の様子が見られ、一生懸命に楽しく取り組んでいた。グランドゴルフクラブの方々も丁寧に対応してくださり、児童と交流することを楽しんでいる様子が見られた。



<県立ふじざくら支援学校との交流会>

1. 目的：ふじざくら支援学校の児童と直接交流し、児童相互のふれあいを通して、相手の立場や気持ちを考える。
2. 内容：鳴沢小学校児童がふじざくら支援学校に行ったり、ふじざくら支援学校の児童が鳴沢小に来たりしながら、学年ごとに年2回の交流をする。一緒にゲームを楽しんだり、歌や踊りの発表を見せ合ったりする。また、学校で取り組んだ作品の掲示をしたり、メッセージカードの交換をしたりする。
3. 成果と課題：毎年交流を継続実施しているため、児童同士が親しい関係性になり、お互いを名前呼び合ったりもしていた。本年度は、一度感染症予防のために、直接交流が実施できない学年もあったが、手紙等の方法で交流を続けることができた。交流を継続して体験することにより、社会性を育て豊かな人間性を養う貴重な機会となっている。

本校の地域校連携・地域交流

富士河口湖町立小立小学校

心を豊かにする教育
～子どものための音楽プロジェクト～
(富士河口湖町音楽のまちづくり実行委員会との連携)

☆学校ミニ演奏会の開催

★出演者

- ①アニ・パノヴァ、フリスティーナ・パノヴァ姉妹 ヴァイオリン ミニ演奏会
- ②ピアノ&チェロデュオ（ヨアゲン・フォウグとフォウグ・浦田陽子）ミニ演奏会
- ③ペトリ・クメラ ギターミニ演奏会

1. 目的と経緯

- ・クラシック音楽を地域において身近なものとするため、音楽家と共同企画で、通常音楽ホールでしか聴くことができない生の本物のクラシック音楽を、音楽ホールの領域から一步出て、学校など身近な会場でミニ演奏会を行いながら、音楽を通じて地域とふれあう交流活動として町で行っている。
- ・生のクラシック音楽の演奏に直接触れたことのない子どもたちが聴いて楽しくなるような音楽との出会いの場所をつくる。また、音楽の素晴らしさを心から楽しむ機会とする。

2. 内容

上記、★出演者①～

③など、毎年、世界的に活躍している音楽家（演奏家）を町でお迎



①



②



③

えし、各校でミニ演奏会を開催している。本校では、出演者①に4年生、②に3年生、③に2年生が演奏を心で感じながら楽しく聴くことができた。

3. 成果と課題

音楽家との共同企画により、通常は音楽ホールでしか体験できない本格的なクラシック音楽を、学校という身近な場所で聴くことができた。また、生の演奏に触れたことのない児童も多い中、目の前で響く音の迫力や奏者の表情・息づかいを感じ、音楽への興味関心を高める貴重な機会となった。児童からは「もっと聴きたい」「楽器に触れてみたい」などの声が寄せられ、音楽の素晴らしさを心から楽しむ場として大きな成果が見られた。また、演奏者と児童の対話や質疑を通し、地域と学校が音楽でつながる新たな交流の場としての効果も確認できた。その一方で、低学年には少し難しい曲もあり、学年に応じたプログラム構成のさらなる工夫が必要であることが課題として挙げられた。

総合的な学習の時間

3年「トウモロコシを育てよう」 5年「米づくりから学ぼう」

1 目的と経緯

本校では、3年生においてトウモロコシ栽培、5年生において米づくりを中心とした体験活動に取り組んでいる。大石地区の農家の方々のご協力のもと、子どもたちが土に交わり、自然にふれあう貴重な機会となっている。この体験を通して、農業への理解や働くことの価値、食への関心などを育むとともに、自然の恵みや地域の方々への感謝の気持ちを培うことを目的に長年にわたり実施している。

苗づくりから収穫までを年間を通して行い、農業に関わる人々の工夫や苦勞に気づき、日本の食文化や持続可能な食料生産の在り方について学んでいく機会になればと思う。

2 内容

【スイートコーン栽培】



6月 播種



7月 定植



9月 収穫



その場で試食

【米づくり】



5月 田植え



9月 稲刈り



10月 脱穀



11月 感謝の会(調理)

3 成果と課題

- 農家の方々の温かい指導のもと、実際に自分たちで苗を栽培し、田植え（定植）から収穫・消費までを体験することができ、収穫の喜びを味わうことができた。またその中で、農家の人々の工夫や苦勞を学び、地域の多くの方々の協力に支えられていることに気づくことができた。
- 汗を流して働くことや仲間と協力して作業を行うことなど、子どもたちにとって労働の価値を学ぶ機会となった。
- 継続的にこれらの活動を行っていくために、費用面での支援や地域人材の活用など、体制面の整備を進めていく必要がある。スクール・ボランティアを含めて、今後も地域との連携推進に重点を置いていきたい。

本校の地域連携・地域交流

富士河口湖町立河口小学校

幼保小の学びをつなぐ ～「幼保小の架け橋プログラム」としての交流活動～

1 目的と経緯

本校では、幼児期から児童期への移行をスムーズに、そして育ちと学びをつなぐため、保育所や幼稚園、認定こども園との連携・接続を重視し、国が示す「幼保小の架け橋プログラム」の趣旨に沿って、計画的な交流活動を進めています。子供たちが安心して小学校生活へ進むためには、就学前と就学後を“別々の世界”とせず、互いの学びや環境がゆるやかに繋がっていることが大切です。

2 内容

11月17日（月）1年生と河口保育所年長児が「やきいもパーティー」で交流活動を行いました。1年生は、年長児を迎えるための環境をどう整えるか、そして、お芋が焼けるまでの時間をどう過ごすかと年長児が楽しめるか、生活科の時間の中でたくさん話し合い、アイデアを出し合いました。



交流に先立ち、1年担任と年長担任が事前に打ち合わせを行い、双方の目的や期待する姿を明確にしていきました。年長児は「小学校の様子を知り、期待を持つこと」、1年生は「思いやりをもって年長さんを迎えること」「自分たちの学びを生かして役割を果たすこと」等、互いに育てたい姿を共有し、互惠性のある交流となるよう丁寧に準備を進めました。

その結果、多目的室に小さな“お祭り広場”が誕生しました。おもちゃ屋さん、アクセサリ一屋さん、魚釣り、もりのレストラン、雑貨屋さん、的当て、楽しい出店が並び、どの出店も秋の木の実や落ち葉など、自分たちが集めた“秋の素材”を工夫して活用していました。自然素材を使ったアクセサリや手作りおもちゃは、どれも子供らしい温かみがあり、年長児は目を輝かせて楽しんでいました。また、1年生が協力して作ったお神輿を担ぐ活動もあり、活気と笑顔があふれる時間となりました。

3 成果と課題

年長児にとっては、1年生の優しい関わりや学校の雰囲気に触れ、「小学校ってこんなところなんだ」「来年が楽しみだな」という期待につながる貴重な機会となりました。1年生にとっても、相手の立場に立って遊びを工夫したり、声をかけたりすることで、入学当初からの成長が随所に見られました。「どうしたら楽しんでもらえるかな」と考える姿は、まさに学びの主体性が育っている証であり、大きな成長として感じられました。

富士河口湖町勝山地区 とうもろこしを通じた地域学習・地域交流

富士河口湖町立勝山小学校

豊かな心の育成

～地域の方々とのとうもろこしづくりを通して～

1. 目的と経緯

地元の特産品であるとうもろこしづくりを地域の方々から学ぶことを通し、地域の良さや素晴らしさに気づく。

3年生の児童を対象とし、総合的な学習の時間における教育活動の一環として実施されている。

2. 活動内容

活動過程	活動概要
事前学習	地域の農業指導員である倉澤吉郎さんから、食用および「もろこし団子」用のとうもろこし作りについて学ぶ。
収穫・乾燥	8月下旬にもろこし団子用のとうもろこしを収穫し、その後2か月間の天日干しを行う。
製粉（粉ひき）	天日干ししたとうもろこしから粒を取り出し、農業指導員の倉澤吉郎さんに石臼の使い方を学び、とうもろこしの粒を粉にする。
調理実習	勝山臼ひきの会の方15名を講師に招き、自分たちで挽いた粉を使って約2時間かけてもろこし団子を作る。

3. 成果

- ・地域特産品の再認識と地域の方々との交流の促進を図ることができた。
- ・とうもろこしの栽培、製粉、調理（団子作り）という全工程を地域の方々と共に学ぶことができた。
- ・一連の体験を通じて、地域の特産物（とうもろこし）の良さを改めて知ることができた。

4. 課題

- ・講師として協力してくださる地域の方々が多忙であるため、活動の時間を調整することが難しい。



観劇を通して、地域のことを楽しく学ぼう

～不二せのうみ劇団公演を通して～
(PTA, 地域 NPO 団体との連携)

☆PTA 教育講演会

公演 「若彦路ものがたり」

NPO 法人 HappyVillage 理事長 福村玲子さん他, 不二せのうみ劇団員の方々

1. 目的と経緯

- ・芸術鑑賞を通して、演劇を楽しむマナーや態度を学ぶ
- ・地域の人や環境を題材として、地域のことを学ぶ。

毎年、地域の自然環境保護や文化の継承を目的にした NPO 法人のつくる劇団「不二せのうみ劇団」をお呼びして芸術鑑賞会を行っている。令和6年度より、PTA 教育講演会として、保護者や地域の方も一緒に楽しんでいる。劇団の代表者は地域在住で、自然環境学習やその保護に関わるフィールドでの案内も行っている。地域のことを楽しく学ぶことができるので、子どもたちは毎年楽しみにしている。



2. 内容



- ・紙芝居を中心に話が展開していく中で、小道具や大道具、照明音響など本格的な劇団である。
- ・毎年、違う演目を用意し、地域の人や自然、歴史について、子どもたちに楽しく、分かりやすく解説している。
- ・令和7年度の演目は、「若彦路ものがたり」。学区内を通る古道「若彦路」にまつわる謂れや歴史を朗読と劇で楽しく学ぶことができた。
- ・昨年度に引き続き三味線奏者の方がゲスト出演し、本格的な演奏も楽しむことができた。

3. 成果と課題

- ・より地域に密着した演目のため、子どもと保護者が地域のことをより身近に感じる事ができた。
- ・演劇を通しての学習のため、子どもたちは楽しみながら地域のことを学習できた。
- ・PTA との共催も 2 回目となり、保護者にも好評で、恒例行事として定着してきていた。
- ・代表の方もまだまだお元気だが、若い世代に活動をどう継承していくか。



本校の地域連携・地域交流

富士河口湖町立大嵐小学校

地域を愛する心を育てる ～ふるさと学習を通して～

1. 目的と経緯

- ・本校では、生活科や社会科、理科の授業で地域を回り、地域の人々や自然について学習している。
- ・毎年4月25日に行われる天神社祭典には、「ふるさと学習」として全校で参加している。コロナの期間には参加を見送っていたが、令和5年度より再開し、今年度で復活後3回目を迎えた。
- ・祭典の前には、町の生涯学習課から講師を招聘して学習会を実施して地域の歴史を学び、地域の良さを見出し、地域に貢献する意欲を高める機会としている。



2. 内容

- ・児童は通常通り登校し、朝の会終了後に全校で多目的室に集まり、富士河口湖町生涯学習課の杉本悠樹さんの講演を聞いた。お話の内容は、「大嵐」の地名の由来、この地域が鎌倉～江戸時代に果たしていた役割や、当時の様子分かる建物や場所の紹介などである。また、児童が祭典の中で担ぐ「神輿」や、「神輿が通る道」についても、クイズを出しながら説明してくださった。
- ・講演後には全校と職員、保護者が列になって神輿庫前に移動して出発式に参加した。その後、大嵐天神社まで山道を登り、区役員や氏子と一緒に参拝した。
- ・その後、ふもとにある出発地点まで行き、行列を作って地域内を練り歩いた。行列の先頭には、賽銭を入れる大きな箆を持つ児童や、柄の長い竿灯を持ったりする児童が並び、その後ろに神輿をかつぐ児童たちが続いた。児童達は保護者からのサポートや声援を受けて、「わっしょいわっしょい」と声を挙げながら地域の通りを元気に練り歩いた。



3. 成果と課題

- ・年度の始めにこの行事を経験することにより、新入児が地域の一員として認められる他、全校児童が地域のことを知るための良い機会である。また保護者も地域のメンバーとして参加することによって地域を知ることができる。
- ・祭りは地域の行事であるため、学校が地域学習の場として活用することを基本としながらも、どのように関わっていけばよいのかについて、今後も検討しつつ取り組んでいきたい。

地域の環境を生かした学習活動と地域行事との有機的なつながりを目指して

富士河口湖町立富士豊茂小学校

1【目的と経緯】

本校のある富士ヶ嶺地区は、富士山の南麓に位置し、標高約 800～1,000 メートルの高原地帯にある。富士山麓の冷涼で広大な自然環境を活かした高原酪農が行われており、乳牛の飼育や牛乳・乳製品の生産が地域の重要な産業となっている。また、「富士ヶ嶺大根」も、品質と味の良さで知られている。本校においても、富士ヶ嶺大根を学校活動の中で栽培してきた経緯がある。コロナ禍以前は、大根を調理する活動を行っていたが、現在では、大根を栽培し、2学期の学校開放日でもある「豊小カーニバル」において、保護者にプレゼントする活動となっている。ちなみに、今年度は、保育所と小学校の連携の一環として、大根の収穫に富士ヶ嶺保育所の園児を招待した。



今年、数年ぶりに地域のイベント「富士ヶ嶺ファームフェスタ」が復活したことに伴い、育てた大根を来場者にプレゼントしてはどうか、という声が保護者や地域の方から上がった。当日は、あいにくの雨であったが、育てた大根は、児童の呼び込みの効果もあり、あっという間になくなった。

また、ファームフェスタに出店していたふれあい共生会の方から、ドライフラワーを使って製作体験をどうか、という提案があった。そこで、クリスマスに合わせ、リース作りを教えていただくこととなった。

2【内容】

	学校での学習活動	保護者・地域との連携
8/23	大根畑のマルチ張り(教職員)	大根畑の耕うん(保護者の方)
8/25	大根の種まき(児童)	
	水やり・草取り等、大根の世話(児童・教職員)	
11/5	大根の収穫(児童・保育所園児・教職員)	
11/8	豊小カーニバルで保護者へプレゼント(児童)	
11/9		ファームフェスタにいらした方にプレゼント(児童・保護者・地域の方)
12/9	クリスマスリース作り(児童・教職員)	クリスマスリース作りの指導(ファームフェスタでドライフラワー店を開いていた共生会の方々)

3【成果と課題】

○お家の方や来場者の方々が、児童が育てた大根を喜んでくださることが、児童にとっては、大変うれしかったようである。

○今回、ファームフェスタが復活したことで、児童が栽培した大根を有効に活用することができた。児童の活躍の場が広がった点については、大変有意義であった。

○共生会の方々のご提案により、クリスマスリース作りを行うことができた。地域の方々との距離の近さ、小規模校ゆえの動きやすさを生かし、学習活動に取り入れられる活動は、今後も取り入れていく。

●継続可能な活動については、今後もブラッシュアップを重ねて取り組んでいく。

